



竹の子

校長室だより

(児童数配付)

令和5年5月18日



先日、6年生の授業を覗いてみると、「枕草子」を勉強していました。

「枕草子」は、平安時代に清少納言により書かれた随筆です。「春はあけぼの」で始まる第一段はとても有名です。

新山小学校の6年生も春夏秋冬に対する思いを綴っていたので、紹介いたします。

| | | | |
|--|---|---|--|
| <p>春は緑。暖かい中で自然をたくさん見れるのがよい。新しく学校が始まり、みんなのザワザワする声も春を感じる。大自然に囲まれて虫と話したい。</p> | <p>夏は暑い。夏休みに入ったら、楽しいが、宿題を思い出すと胸が痛い。暑くなるしい虫の音も、アイスを食べればいい音に聞こえる。雨の日は、むしろ暑くて、冷たいものを食べすぎる。</p> | <p>秋は夜。秋の夜、すず虫やコウロギが鳴いている。虫の鳴き声は、音楽みたいで、聞いていて楽しい。</p> | <p>冬は朝。白く冷たい息をはくのが面白い。雪が積もっていたら、雪だるまを作るのも楽しい。家の中、こたつで暖まるのも、また、気持ちよい。</p> |
|--|---|---|--|

※作品は、4人のお友達の作品になります。

いかがですか？

それぞれの春夏秋冬の情景が目浮かぶようです。他の作品も素晴らしく、6年生の感情の豊かさを感じました。



☆彡 ☆彡 ☆彡 ☆彡 ☆彡 ☆彡 ☆彡 ☆彡 ☆彡

「おはようございます」朝、多くの子供たちの元気な声が響きます。

令和5年度が始まって、1か月が過ぎ、今年目標である「日本一 あいさつができる学校」に向けて、着実に成長している気がします。

さて、5月21日は、二十四節季の小満にあたります。

小満とは、梅雨入り前の暖かな季節であり、太陽の光を浴びて、万物がすくすく成長していく頃になります。

子供たちも大きく成長しようとしています。

人の成長は、体だけでなく心の成長も大切です。人と関わり合うことで、楽しいことも、苦しいことも経験します。しかし、その一つ一つを乗り越えることで、人は大きく成長するのだと思います。

苦しいとき、苦しんでいる人を見たとき、自分自身がどのように行動することがよいのか、よく考えてほしいと思います。その一つ一つの行動が、皆さんを成長させるのだと思います。